

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472601333
法人名	社会福祉法人 思賜財団 神奈川同胞援護会
事業所名	グループホーム相模原
訪問調査日	平成19年7月12日
評価確定日	平成19年9月29日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1472601333		
法人名	社会福祉法人 恩賜財団 神奈川県同胞援護会		
事業所名	グループホーム 相模原		
所在地 (電話番号)	神奈川県相模原市大野台5-13-7 (電話) 042-776-5506		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	平成19年9月29日

【情報提供票より】(19年6月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8人
職員数	10人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての 1階 部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	26,550 円
敷金	130,000 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり		1,150円

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 79.5歳	最低	70歳	最高	85歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘寿クリニック、総合相模更正病院、岩元歯科
---------	-----------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはJR古淵駅から徒歩20分の閑静な住宅地にある、定員8名の事業所である。ホームの理念である「自由と尊厳」、「生きてきた過程を大切に」などを尊重し、一人ひとりのペースを大切に、その日の思いや体調に沿った暮らしを支援している。
法人系列施設と連携して、看護師による訪問看護、理学療法士によるリハビリが行われている。終末期の対応については、法人から医療・看護の支援がある。また、将来の重度化に対応するため、希望者には入居契約時に法人特養の入居申し込みを受け付けている。
地域との交流が盛んで、行事に招かれたり、ボランティアに訪れてもらっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成18年度の外部評価で指摘のあった、献立の栄養バランスやカロリーについては、法人併設施設の管理栄養士が、定期的にチェックするように改善した。 隣接の敷地に家庭菜園をつくり、利用者が野菜を育成・収穫しており、食卓をにぎわしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的について、職員にガイドブックを配布し周知した。1年間の業務の振り返りとして、全職員で自己評価に取り組んで作成した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年10月より、3ヶ月に1回開催されている。利用者・家族・自治会長・民生委員・市役所職員・施設長・管理者・職員が参加している。会議では施設見学をしたり、事業や行事について説明して、意見交換をしている。今後は課題を絞り込み、サービスの質向上に積極的に取り組む意向である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見、要望は家族の来訪時や家族会で聞いている。相談、苦情の申し立て先については重要事項説明書に記載している。第三者が参画する第三者委員会の仕組みがある。これまでに苦情になるような問題は発生していない。玄関にご意見箱や苦情受付案内が置かれている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会・老人会に加入して、地域の行事に出かけたり、法人と合同で納涼夏祭り・花火大会を開催し、地域の人を招待している。地域の協力を得て災害避難訓練が行われている。日常的には近隣の住民と、陶芸教室や盆栽を通じて交流している。また、調理、散歩、掃除、洗濯等のボランティアに訪れてもらったり、保育園とはクリスマス会・お遊戯会などの交流がある。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に施設長・管理者と職員全員で独自の理念を作成した。理念は、玄関・事務室に掲示されている。認知症の利用者が住み慣れた地域の中で地域の人との交流を通じ、生き生きと暮らし自己実現ができるように支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議やケアプラン会議で、理念を取り上げ話し合い、日々のサービス提供場面に活かされるように意識づけをしている。利用者の出来る事、出来ない事を見極め、待つ介護(見守り)で自立支援を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会に加入しており、地域との交流が盛んである。納涼夏祭り・花火大会に地域の人を招待したり、災害避難訓練も地域と合同で行っている。日常的には陶芸教室や盆栽を通じて交流している。調理、散歩、掃除、洗濯のボランティアに訪問してもらったり、保育園とはクリスマス会・お遊戯会などの交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が参加して作成した。平成18年度の外部評価結果は職員・家族に説明し、家族に送付した。外部評価で指摘のあった、献立の栄養バランスやカロリーについては、法人併設施設の管理栄養士が、定期的にチェックするように改善した。また、隣接地に家庭菜園をつくり、野菜の育成を始めた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年10月より、3ヶ月に1回開催されている。利用者・家族・自治会長・民生委員・市役所職員・施設長・管理者・職員が参加している。会議では施設見学をしたり、事業内容・行事内容を説明して、意見交換をしている。今後は課題を絞り込み、サービスの質向上に積極的に取り組む意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは日常的に事業の相談・連絡を行っている。生活保護の指定を受けていることから、福祉事務所とは連絡を密にしている。併設の地域包括支援センターの依頼で認知症介護の講師派遣を行った。電話での介護相談も受けている。介護教室は過去に1回行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時に声かけし、説明している。突発的な病気・ケガは、電話で知らせている。来訪の少ない家族には、電話連絡をしたり、請求書郵送便(月1回)に生活状況表・手紙・小遣い帳と収支明細を同封して暮らしぶりを伝えている。ホーム便り「家族の輪」は年2回発行し、家族の様子や行事予定を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は家族の来訪時や家族会で聞いている。相談、苦情の申し立て先は重要事項説明書に記載している。第三者が参画する第三者委員会の仕組みがある。これまでに苦情になるような問題は発生していない。玄関にご意見箱や苦情受付案内が置かれている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに管理者・職員の異動があったが、その際は利用者に一日も早く馴染んでもらうため、引継ぎ期間を十分にとり、信頼関係を構築し不安解消に努めた。この1年間は管理者・職員とも異動がなく、落ち着いて安定した介護が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、全職員が研修を受講している。法人の施設内研修や特養との合同研修がある。グループホーム協会症例検討部会、ICFケアプランなど認知症介護と緊急対応についての研修を重点的に受講している。受講者は報告書を作成し、全職員に回覧し、情報を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、同業者と情報交換をしたり、交流を深めている。また、法人内の2ヶ月に1回の全体会議、月1回の主任(管理者)会議に参加し、運営等のサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>管理者が入居希望者の居宅を訪問し、事業所の説明を行い、何度か見学してもらい納得してもらってから入居を決めている。利用者が馴染み落ち着くまでは家族に訪問してもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は、家族同様の生活を送っている。女性の利用者からは料理・編み物を教わることが多い。男性の利用者も洗濯・洗濯物たたみ・料理の手伝い・配膳の準備・皿拭き・紙くず入れの片づけなどを積極的に行っており、お互いに支えあっている。一緒に生活することを通じて、笑い、喜び、楽しみを共有できる機会をつくり出している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の日々の行動を観察し、家族から意向や希望を聞き取っている。利用者の希望を把握して、アセスメントシートに書き加え、全職員が共有するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>全職員でカンファレンスを行い、その時の利用者・家族の意向を反映し、利用者の視点に立った介護計画を作成している。自立支援をモットーに出来る事、出来ない事、残存機能を引き出すことなどが、ケアプラン会議で話し合われている。今後は全ての利用者と家族にもケアプラン会議の参加を呼びかけていく意向である。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居間もない時期はこまめに介護計画を見直している。心身の状態が安定している利用者については、3ヶ月に1回見直しをしている。全職員でモニタリングを実施している。また、状態の変化を察知した場合は、随時カンファレンスを開催して介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の特養と連携しており、訪問看護師が週に1回、理学療法士(無料)と精神科医は月に2回訪問診療がある。 希望があれば自由に外泊、通院が出来るなど柔軟に対応している。利用者が出かけた場所を聞き取り、職員が同行して外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族が選択することができる。2名の利用者は、入居前からのかかりつけ医院に家族が付き添い通院している。6名の利用者は事業所と提携している精神科(内科)の往診がある。利用者全員が年に1回健康診断を受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、法人から医療・看護の支援がある。「終末期看取り指針」があり、家族に方針を説明している。本人・家族の希望があり、平成18年度に1名の看取りを行った。法人研修「終末ケア」を全職員が受講している。また、将来重度化した場合の対応のため、希望者にはホームの入居契約時に、法人特養の入居申し込みを受け付けている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護にかかわる研修を受講している。重要書類は、事務室の書庫に施錠保管している。調査日の職員態度、言葉使い、入浴・トイレ誘導は穏やかでさりげない対応であった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念である「自由と尊厳」「生きてきた過程を大切に」などを尊重し、利用者本位で、一人ひとりのペースを大切に、その日の思いや体調に沿った暮らしを支援している。出来る事、出来ない事を見極め、残存機能を引き出すように待つケア、見守りを基本に自立を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査日は、職員も利用者と一緒に同じテーブルやちゃぶ台につき、介助や見守りをしながら食事していた。食事中は音楽を流し、テレビをつけ、献立や家庭菜園の野菜の会話を楽しみながら食事していた。利用者はそれぞれできることを行っており、男性の利用者も、いなり寿司作りの手伝い、皿拭き、お膳拭きをしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯の制限は無く、一人ひとりの希望に沿って入浴している。毎日入浴している人もいるが、平均的には週に4回である。入浴対応のためボランティアに協力してもらっている。入浴を拒む人は現在のところいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が張り合いある生活を送れるよう、一人ひとり生活歴や能力を生かして、家庭菜園での野菜育成、生け花、盆栽、陶芸教室、民謡、カラオケなどの活動を支援している。このほか四季折々の年間行事が企画されており、家族も参加している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や買い物に出かけている。その他、ドライブ、外食や花見に出かけている。外出時の楽しそうな写真がホーム内に掲示されていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠していない。利用者の出入りは、見守りと、2つのドアの2種類の開閉チャイムにより確認している。ドアがロックされていても、利用者・家族は解除ボタンの操作を理解しており、自分で開閉できる。パソコンを玄関脇に置き、業務記録を行いながら見守りをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域福祉友の会の協力を得て年に2回、特養との合同避難訓練を実施している。緊急対応マニュアルがあり、消火器の設置、避難経路の確保の点検を行っている。災害用非常食や飲料水の備蓄がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握し献立を作っている。検食簿がある。毎日の摂食量や水分摂取量を、チェックシートに記録している。献立の栄養バランスやカロリーは法人の管理栄養士がチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は明るく清潔である。家具や照明は一般家庭と同じものを使用している。共用空間には、生け花や絵画、利用者の作品、行事の写真等が飾られている。こたつのある畳の居間にテレビが置かれ、家庭的な雰囲気作りに努力している。仲の良いグループ同士が三々五々寛いでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「利用案内」で使い慣れた家具や茶器等の持ち込みを勧めている。居室は8.5畳と広く、利用者の使い慣れたベッド、テーブル、椅子、テレビ、冷蔵庫などが持ち込まれている。備え付け収納ボックス(和室は押入れ)を利用して、仏壇、写真、絵画、人形などが整理され飾られており、居心地良く暮らせるようになっている。家族の宿泊用に予備のベッドが用意されていた。床材はクッションフロアで、転倒防止のため、畳・布団を使用している部屋もある。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム相模原
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市
記入者名 (管理者)	山田 拓郎
記入日	平成 19年 6月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中でその人らしく生活できるか、職員会議などで話し合いの機会を設け、地域に密着したサービスが提供できるようにしている。また、法人内でも事業所ごとの方針・目標を立てている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>グループホーム相模原の理念を見やすい場所に掲示し、職員会議や日常の会話などで話し合われている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には家族会や会報を発行している。地域の方々には運営推進会議などで理解を高めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買物の時挨拶をしたり、地域ボランティアの方々にも声をかけている。また、併設施設の利用者が遊びに来たりすることはあるが日常的な関わりはほとんどない。</p>	○ 地域の人たちが訪ねて来やすいホーム作り。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>老人会や公民館の行事、地域ボランティアの集いにはすでに参加しており、これからも積極的に参加するようにしていく。地域のボランティアが週に1度陶芸教室に来てくれている。</p>	○ 今後、小学校や保育園などの行事に参加し、今以上の交流が出来るようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域友の会の会員・民生委員・自治会長などの話し合える機会を多く持ち、施設として役立てることを考えている。	○	地域の高齢者、家族と交流を図りながら認知症や介護サービス について理解してもらえたい機会を作りたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価をする中で各項目の達成度を評価し、一步一步取り組める項目を職員で話し合い改善につなげている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、グループホーム相模原の事業内容・行事内容などを報告しており意見をもらっている。今後地域の行事(盆踊りや子供祭りなどに参加させてもらう予定)		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村に出向いたり、電話などで事業内容の連絡・相談を行なっている。 生活保護の指定を受けていることから、福祉事務所との連絡も密にとっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	敷地内に包括支援センターがあり、相談ができたり、パンフレットの活用や職員会議などで学び必要な人に支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で学び、話し合い確認しており。現在ホームでは虐待はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>初回契約時事業内容・契約内容を説明している。また、契約更新時意見を聞き話しあう機会を作っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と職員の信頼関係を築き、マンツーマンで話ができる機会を作れるようケアプランにも盛り込んでいる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月生活状況を作成し郵送している。また、管理者以外でも面会時にも日々の生活状況を伝えている。状態に変化があった時は電話で報告している。金銭管理・職員の移動等は管理者から報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情申し立て先、窓口担当者名と公的機関の連絡先を明記し、契約時に利用者及び家族に説明している。また、玄関にご意見箱を設置している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設長・管理者は職員会議に参加している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態や勤務の流れに合わせ、必要であれば勤務職員を増やしたり、時間をずらしたりして調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職・転勤する時は引継ぎを確実にこなしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内での勉強会を行なっている。また外部での研修にも参加できるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業者と症例検討会や情報交換を目的に、定期的に交流している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内に介護アドバイザーが配置されており、職場内のストレスは相談できる体制をとっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己申告所などもあり、パートから臨時職員、常勤職員へとステップアップできるようになっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	声かけを多くしたり、利用者の不安や訴えることを傾聴し、受容するように 努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来てもらったり、利用者宅に面接行ったりしながら、家族の抱えている悩みなど聞くように心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携をとりながら、相談に乗るよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	原則的に本人に見学してもらっている。慣れるまでご家族に面会に多く来ていただいたり、電話での連絡が取れるように話をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で「一緒に生活する」という姿勢をとっている。会話や作業の中で学ぶことも多く、また共感できるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に話し合いを持ちながら、本人とその時の状態に応じた支援に取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	現在入居している利用者と家族は良好な関係であるため、今までの家族関係が継続できるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただいたり、個別でなじみの場所に行く機会を作っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の合う・合わないを把握しており、孤立せず利用者同士が関わり合えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とする家族には面会を歓迎している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞き取りを行い、暮らし方の希望や意向をケアプランに反映させている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話の中から感じとったり、家族から聞きだしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の利用者を観察しながら現状を総合的に判断できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議を密に行ない職員会議での意見や本人や家族参加での話し合いの中で、ICFの考え方を取り入れながら介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、状態に変化があったときは見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録に利用者の様子を記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外泊などスムーズに行なえるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアが来所している。また、公的な施設で行なわれる催しものに参加している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居希望者など担当のケアマネジャーを含めて話し合いをしている。同一敷地内にあるデイサービスの行事に参加。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連絡を取り合っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度往診があり(口答往診を含む)、適切な医療受診は出来ている。 本人の希望で往診に来る医師以外の医師が主治医になっている場合もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医師の往診があり、職員の相談のもとで診察が行なわれている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度訪問看護師に相談・健康管理の支援を行なってもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人・家族の意向を聞きながら、早期退院に向け病院と調整している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針を家族に説明している。終末期は家族との話し合いを持ち、利用者の状態にあった場所で生活が出来るように支援している。	○	終末期の対応についての勉強会の実施や医療面での体制作りを行なっていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と連絡を取りながら、医療面での支援を行なっている。状態によってはかかりつけ医に紹介状を書いてもらい、他病院に通院・入院することもある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	個人情報に留意しながら、本人・家族了解を得て受け入れ先の事業者へ情報を渡している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケース記録・業務日誌は利用者の目の届かないところで保管。職員間の利用者の呼び方は隠語を使っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で利用者が選択し、自己決定が出来るような言葉かけを行なっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩や買物、または家でゆっくりしたい等決めてもらい意志に沿った援助を心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎日化粧の時間をとっている。散髪は行きつけの床屋に行けるよう支援している。行きつけの床屋がない方はホームに美容師が来所したり、料金等で店を選びながら散髪を行なっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事作りを一緒に行い、同じものを同じテーブルで一緒に利用者と職員が食事をしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師からの指示がない限り、好みのものが楽しめるように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ類の使用を控え、介助が必要な人に対しては個人個人の排泄パターンを把握し、失敗のないよう声かけ誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の好きな時間帯に無理なく、安心して入浴していただけるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない時はリビングでくつろいでいただくこといたり、ホットミルクなどを飲んでもらい、安眠誘導している。日中は散策や外気浴等の気分転換にも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の利用者の生活歴を十分に聞き取り、その人の力を活かした役割、楽しみが見つけられるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方、希望のある方にはご家族の了承を得て、自分で財布・お金を持ってもらい、買物時自分で支払いをしてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は散歩や買物など外出する機会を作っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアとして「里帰り行事」を計画し、なじみのある場所、希望の場所へ行く機会を年に一度作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の支援・電話は希望時いつでもかけられるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会時間は決めずいつでも面会に来れるようにしている。居室に間仕切りカーテンを付け、ゆっくりと話が出来るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、身体拘束を行わない介護方法を話し合っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者自身が自由に鍵を開け出入りできるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者がどこにいるのか、常に把握が出来るよう見守りを行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員が目配り、気配りをする事で危険防止に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	クッションフロア・壁面のコーナーにもクッションをつける等転倒を防止している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問看護師による勉強会(緊急時の対応)を実施。緊急対応マニュアルを作成し、すぐに見られる場所へ置いている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域福祉友の会に協力を得られる体制をとっている。緊急連絡網を作成している。年に1度全体の避難訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時・利用者の状態が変わる都度説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日決まった時間にバイタルチェックし食事量とバイタルを記録している。異常があった時は看護師に連絡を取っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ある程度の服薬内容・副作用は理解している。分からない点については、処方箋がすぐに見られるところに置いてある。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含んだ食品を多く摂ってもらい、自然な排便があるように支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、行なってもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し盛り付けの量を工夫している。毎食後食事量のチェックをしており、著しく食事量が少ない場合は個別に記録をとっている。高カロリーゼリーを用意している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。毎食前手洗いを徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具・ふきんなどの消毒、食品の賞味期限の管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは常に季節の花を植え、ガーデニングを工夫し出入りしやすい雰囲気を作っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に合った飾り付けをしている。また、食卓に季節の花を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室に気の合う利用者を招いて話をしている。居室で休んでいる時は、あまり無理に声かけなどしないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具などを持ってきてもらい、それぞれの生活のスタイルや個性に応じた居室となっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	清掃時は窓を開け換気している。夜間も利用者の状態に合わせて温度設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開きスペースが広がらないように、家具などの配置を考えている。クッションフロアの活用。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	すぐに手を出さずに本人の持っている能力を見極め、出来ないことを手伝ったり、一緒に行なったりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑作りの出来る場所、盆栽・園芸を楽しめる場所がある。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 1日1回は必ず外出できるような職員体制をとっている。
- ・ 利用者の急な外出の希望などにも柔軟に対応できている。
- ・ 今までの生い立ちを把握しグループホームに入居しても、その人らしい人生が送れるように支援している。
- ・ グループホームを利用者にとっての「家」として、安心して楽しく生活が送れるよう職員全員が個々の利用者に合わせ行動している。
- ・ 日常業務を簡素化し利用者に関われる時間を多くとっている。
- ・ ICF考え方を取り入れケアプランを作成している。